



# 西野さんより 「郷土本」 寄贈

## 1. 読み聞かせ・本寄贈- (6/24)

今回の読み聞かせは、西野嘉憲さんと宮城典子さんです。西野さんは自書の「島に根を張る」と「月間たくさんのふしぎパイナップルに見た夢」を紹介し、その2冊を学校に寄贈していただきました。私の知っている方々も載っていて夢中になりました。ありがとうございます。皆さんも読んでくださいね。



## 2. 養護教諭「池田歌音」着任- (6/24)

5月から病気療養中の喜友名千穂養護教諭の後任が決まりました。本人のコメントです。「はじめまして。6月24日から千穂先生の代わりに勤務することになりました、養護教諭の池田歌音(いけだかのん)です。子ども達が毎日楽しそうに虫取りをしている姿が印象的で、自然いっぱいの中でのびのびとできていいな~と感じています。保護者や地域の皆さんと一緒に協力し合いながら、子どもたちの心と体の健康、安全を守っていきたいと思います。1年間、よろしくお願いします。



## 3. 小：朝スポー (6/26)

今日の朝スポは、校門前の広場で行い、5年生の2人は一輪車を、その他の児童は大縄跳びに挑戦していました。5年生にいつ頃乗れそうと聞くと1ヶ月後と言っていたので楽しみに待っています。大縄跳びも6人で8回ほど跳べたようです。すごいねー！目標を決めてチャレンジしてください。



## 4. 中：人権タイムー (6/26)

月曜日は慰霊の日でした。そこで戦争をテーマにした人権作文「戦争をしてはいけない(大玉中学校1年生作)」を皆で読み、戦争と人権について考えました。私たち一人一人には人権(当たり前生きる権利)がありますが、戦争が起こってしまうと、その人権が無視されてしまう。戦争を起こさないためにも過去の戦争から学び、平和に解決する方法を考えて行きましようと言っています。私たちが出来ることはどんなことでしょうか。考えてみましたか。



## 5. サイバー犯罪防止教室ー (6/26)

今ではほとんどの人が持っているスマートフォン。それに係る問題も増えています。増加傾向にあるサイバー犯罪から児童・生徒を守るため、サイバー犯罪防止教室を行いました。講師は八重山署の伊藤美香さん。ネットによるいじめ、画像の不適切使用、ネット依存がもたらす影響などをスライドを通して紹介していただきました。あなたが「入力した言葉」「撮った写真や動画」送信前に5秒待て！自分も仲間も大切な人を守るために！





## 6. 中：スピーチ集会－(6/25) (原文)

過去に戻ることができたなら 中1年 吉田 拓磨

皆さんは、「もしも過去に戻れたらなあ。」と、思ったことはありませんか？  
ばくは、何度もそんな経験をしたことがあります。もしそんな願いがかなえられるのなら、皆さんはどうしますか？

まず、過去にもどるといのは、タイムリープ、タイムリープは、意識が過去の自分に移動することを、さしています。今回の話題は、タイムトラベルというよりは、タイムリープの話です。このように、過去に戻ることは多くの文化や理論で探求されていますが、現実的には非常に難しいとされています。このスピーチを、作る前にインスピレーションをうけたのは、バクトウザフューチャーからでした。この作品は、タイムリープというよりは、タイムスリップなんですけどね。皆さんも、過去に戻りたいと思ったことは、ありませんか？以上で、僕のスピーチを、終わります。



第六感 中3年 伊志嶺 芹菜

皆さんは第六感を信じますか？人間には、嗅覚、味覚、視覚、聴覚、触覚の五感が存在します。でも、もしもう一つの感性「なにか」が存在していたらどうでしょう。私たちはそれを知らないのだからその「なにか」は存在しないと考えるかもしれません。しかしながら、世の中には不思議なことで溢れています。皆さんはこのようなことを聞いたことがありますか？ビジネスマン・ジョン(仮名)仕事で飛行機に乗る予定だったが、空港に向かう途中で、「乗っちゃいけない」という強烈な不安に襲われ予約をキャンセルしたそうです。その乗る予定だった飛行機は、離陸後にエンジントラブルで墜落し生存者はいなかったそうです。彼は後に「何も根拠はなかった。ただ、死ぬ気がしたんだ」と語っているそうです。このように、五感以外の別の感覚が本当にあるのかもしれない。私は第六感があると考えています。けれども、同時にそれを知るのは難しいとも感じています。それはどういうことか。私がこの考えに至ったエピソードを話します。前に私は、親を知らない赤ちゃんの話聞いたことがあります。その赤ちゃんは親を知らないのだから「自分がどうやって生まれてきたのか分からない」自分はどうやってこの世に生まれてきたのか？赤ちゃんは親を知らないのだから「親」なんて存在を考えも想像すらできないと思います。つまり、「自分は無から産まれてきた」そう赤ちゃんは思うはず。それと同じようにこの宇宙を作った存在を私たちは知らないから「宇宙は無から産まれてきた」そう考えると思います。さっきの赤ちゃんも自分を産んだ存在を知らないからどちらとも「自分は無から産まれてきた」と考えてしまいます。これは突飛な発想でしょうか？いいえ、私はそうは思いません。私たちに鼻が無かったらどうでしょう。この世に匂いがあるなんて「気づかなかった」と思います。実際そうで、鼻がなければこの世の物体に匂いがあるなんて考えにも至らなかったと思います。もしかしたら、第六感も知覚できないだけで本当はだれしも持っているものだとしたら…。これまでの話は私なりに立てた仮説です。みなさんはどう思いますか？そして、自分に隠れた第六感があるとするならどんな感性が欲しいですか？そんなことを想像してみるのも面白いかもしれませんね。これで私の発表を終わります。



具志堅用高について 中3年 伊敷 愛星

皆さんこの人を知っていますか？テレビではユニークなキャラですが、ボクシングで有名な具志堅用高です。これから具志堅用高について発表します。具志堅用高は1955年(昭和30年)6月26日に沖縄県石垣市に生まれます。生まれた時は未熟児で体が弱かったそうですが、物心ついた時にはわんぱくで外を走り回る子供だったといひます。小学生時代は、友達と海で泳いでいたり、野山を駆け回っていたりしたそうです。中学時代は野球部に在籍していたそうです。しかし、他の生徒との体格差が広がり、レギュラーを勝ち取れませんでした。中学3年生の頃、八重山商工高校を受験しましたが、名前を書き忘れて不合格になり、沖縄の興南高校に進学したそうです。野球部に入ろうとしましたが、身長が足りず、入部を断られ、同級生に誘われてボクシング部の練習を見学して、背が低くてもボクシングならできるとボクシング部に入部したそうです。このことで彼の人生は大きく変わることになりました。最初は、ボコボコに殴られ、鼻血も出て、やめたいと思ったそうですが、練習を頑張って高校生の時にインターハイ・モスキート級を優勝しました。その後、わずか18歳の時にフライ級でプロデビューを果たし、ライトフライ級が新設されると階級をフライ級からライトフライ級に転向して、WBA世界ライトフライ級王者になり、ボクシングにおいて難しいとされるチャンピオンの防衛戦を13回も達成しました。この記録は今も尚、保持し続けています。具志堅用高の戦績は、24戦23勝1敗で15KOとすごい戦績です。突然ですがクイズです。彼は、負けた防衛戦の試合では、アイスクリームを食べられませんでした。もしもアイスクリームを食べていたらどうなっていたのでしょうか？皆さんも具志堅用高のことを好きになりましたか？これで僕の発表を終わります。

